

NEDO における研究評価について

(個別テーマの事後評価)

1. NEDO における研究評価の位置付けについて

平成 15 年 10 月、独立行政法人として新たにスタートした NEDO は、全ての事業について評価を実施することを定め、不断の業務改善に資するべく評価を実施しています。

研究評価は、その実施時期により、事前評価、中間評価、事後評価及び追跡調査・評価に分類されます。(図 1)

NEDO では、研究開発マネジメントサイクル(図 2)の一翼を担うものとして研究評価を位置付け、評価結果を事業の資源配分、事業計画等に適切に反映させることにより、事業の加速化、縮小、中止、見直し等を的確に実施し、「成果を挙げる NEDO」、「利用しやすい NEDO」の実現を目指しています。

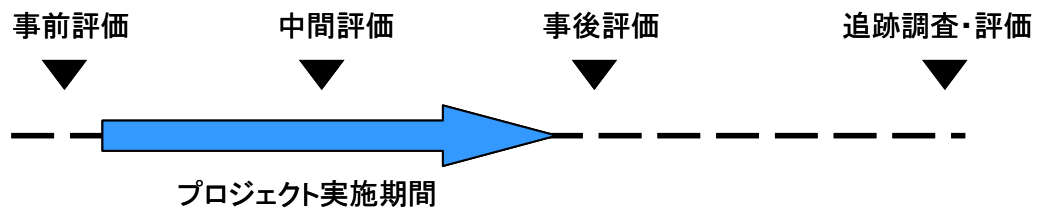


図 1 研究評価の実施時期

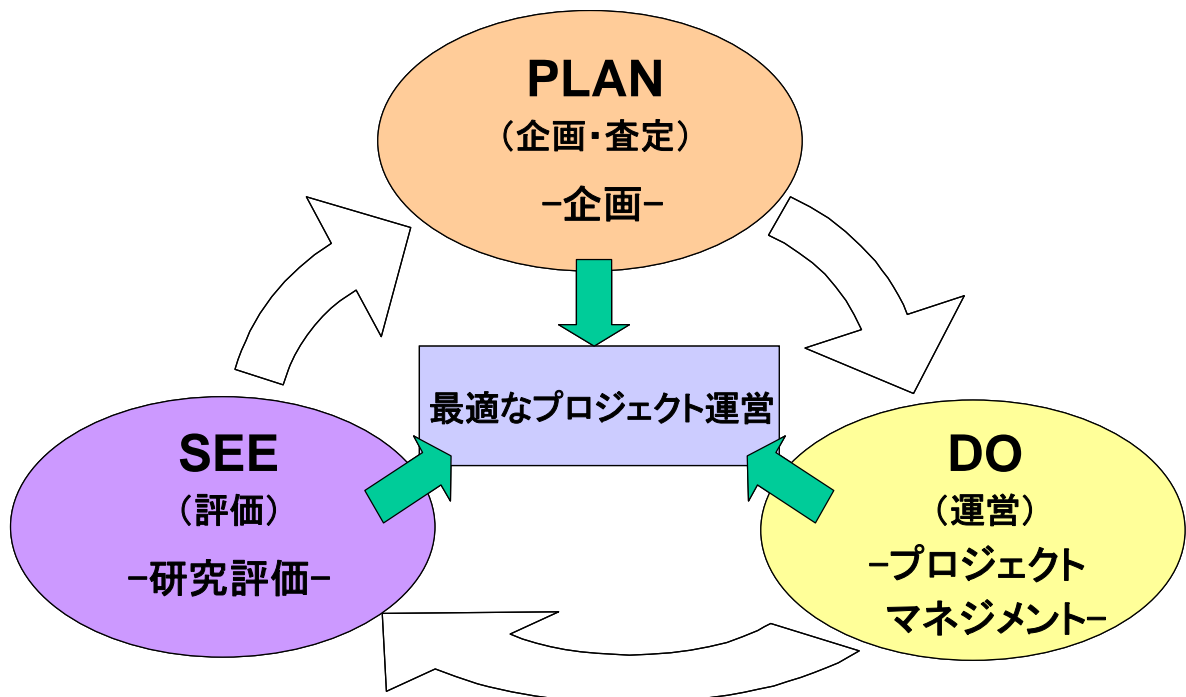


図 2 研究開発マネジメントサイクル概念図

2. 研究評価の目的

NEDO では、次の 3 つを目的として掲げ、研究評価を実施しています。

- (1) 業務の高度化等の自己改革を促進する。
- (2) 社会に対する説明責任を履行するとともに、経済・社会ニーズを取り込む。
- (3) 評価結果を資源配分に反映させ、資源の重点化及び業務の効率化を促進する。

3. 研究評価の共通原則

研究評価の実施にあたっては、次の 5 つを共通原則としています。

- (1) 評価の透明性を確保するため、評価結果のみならず評価方法及び評価結果の反映状況を可能な限り被評価者及び社会に公表する。
- (2) 評価の明示性を確保するため、可能な限り被評価者と評価者の討議を奨励する。
- (3) 評価の実効性を確保するため、資源配分及び自己改革に反映しやすい評価方法を採用する。
- (4) 評価の中立性を確保するため、可能な限り外部評価又は第三者評価のいずれかによって行う。
- (5) 評価の効率性に留意するため、研究開発等の必要な書類の整備及び不必要な評価作業の重複の排除等に努める。

4. 研究評価の種類

NEDO では、事業の規模、目的、内容及び性格に応じて、研究評価を行っています。

研究評価は、次の種類に大別されます。また、それぞれ、評価の実施時期により、① 事前評価、② 中間評価、③ 事後評価、④ 追跡調査・評価があります。

【プロジェクト評価（制度を除く）】

NEDO が自ら定めたプロジェクト基本計画に基づき実施する研究開発事業に係る評価。

【制度評価】

研究開発内容を定期的に公募・選定して実施する研究開発事業に係る評価。

なお、制度下で実施される各研究テーマ（個別テーマ）についても、評価を実施しています。

5. 今回の評価について

「半導体アプリケーションチッププロジェクト（情報家電用半導体アプリケーションチップ技術開発）」は、「制度」に分類されています。今回の評価は、「個別テーマについての事後評価」です。個別テーマの事後評価の作業フローを図 3 に示します。

個別テーマに関する評価の評価事務局は、推進部署である電子・情報技術開発部となります。また、評価を実施するに際しては、研究評価広報部と連携をとって進めています。（図 4）

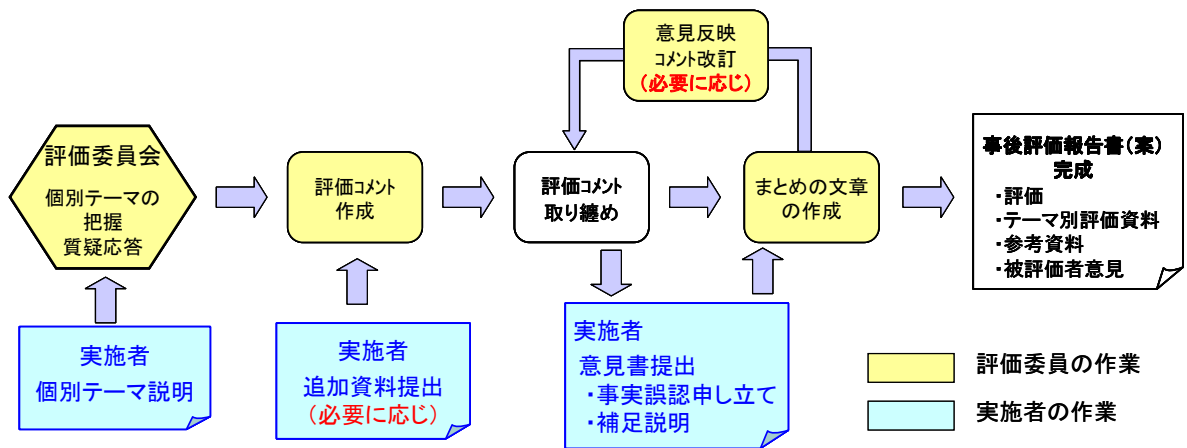


図3 個別テーマの事後評価の作業フロー

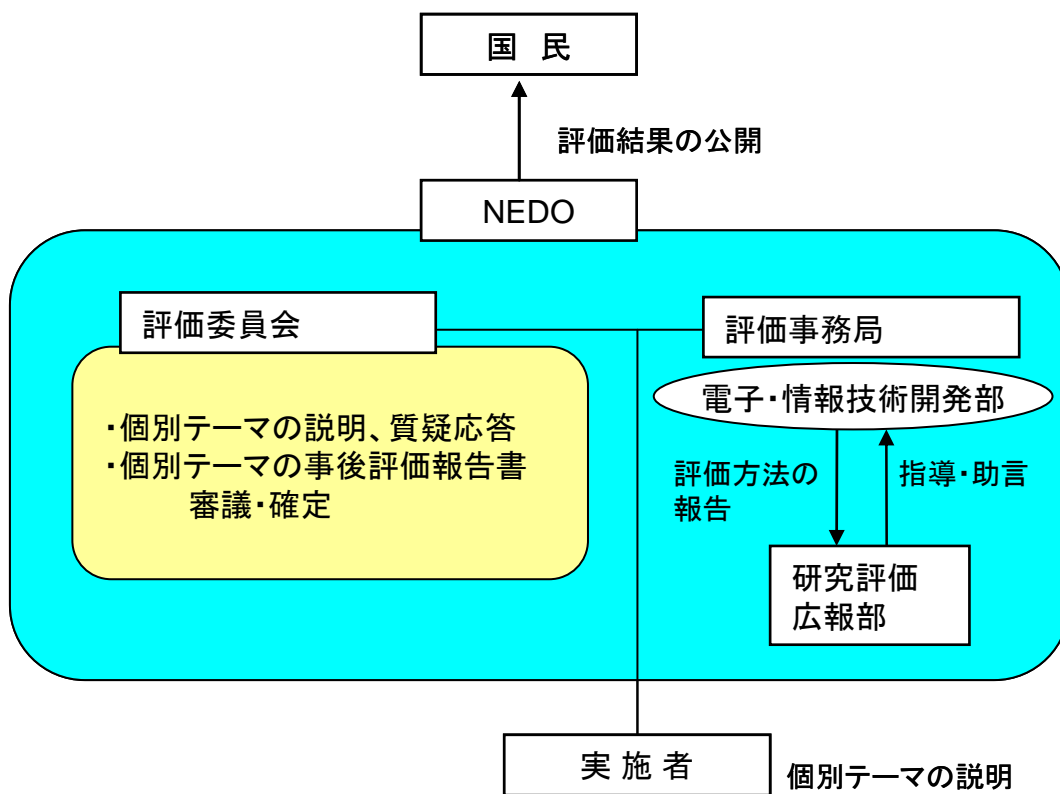


図4 制度に関する評価の実施体制